

大きさ：約 h300 × w300 × d100cm 会場 10 箇所に点在
素 材：竹、プラスチック紙、ロープ、塩ビパイプ、ウォータージャグ等
発表場所：静岡アートドキュメント 2014
発表年：2014年11月29日～12月7日

2014年11月29日～12月7日にかけて静岡アートドキュメント2014が日本平周辺の5つの会場である舞台芸術公園、遊木の森、静岡大学ピオトープ、大家の古民家（大村邸）、萬象寺において開催された。実行委員の一人として、筆者も企画に加わり、日本平パークウェイ途中にある遊木の森において作品を展示した。ここでは、普段 NPO 法人しずおか環境教育研究会による様々な自然教育プログラムが実施されている。今回の会期中にも子供向けのワークショップが共同開催された。この会場では11人の作家が作品を展示した。そのほとんどが、この自然環境を意識した作品となった。

筆者が、初めてここを訪れ森の中を散策した時、木々のざわめきと小鳥の鳴き声、そこに流れる風

の音が自然と体の中に入ってきた。心地よい気分には浸っていると、途端にパークウェイを疾走するバイクの爆音が飛び込んでくる。視覚より聴覚の情報に敏感になる森である。そこでこの森を吹き抜ける風を作品化することを試みた。装置はそこにある木の配置を生かし竹と紙でできた羽をロープで掛け、ウォータージャグに着けた塩ビパイプに繋いだものである。風を受けた羽が、ウォータージャグを引いているロープを緩め、中に溜められた空気を出すことで取り付けられたパイプから音を発する。森を駆け抜ける風を音に変換した作品である。また鑑賞者自身が装置に触れて変化する音を楽しんでもらうことも想定した。



